



# 1. 部活動の意義と課題

令和4年度第1回小牧市小中学校部活動検討委員会 資料より

## ■ 意義

- ・ 教科学習と異なる集団での活動を通じた人間形成や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ・ 生徒の文化芸術等やスポーツに親しむ機会を確保。
- ・ 人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制。信頼感・一体感の醸成。

## ■ 課題

- ・ 少子化による生徒数の減少に伴い、部活動を継続できない地域がある。
  - ・ 競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな負担となっている。
- ⇒教師の長時間労働の要因に

- 「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」 (令和2年9月)
- 「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」 (令和4年6月)
- 「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」 (令和4年8月)



## 2. 目指す姿

令和4年度第1回小牧市小中学校部活動検討委員会 資料より

少子化の中でも、将来にわたり小牧市の子どもたちが文化芸術やスポーツに継続して親しむことができる機会を確保する。

- 子どもたちの望ましい成長を保障できるよう、地域と連携して（地域人材の活用）多様な文化芸術やスポーツの活動機会を確保
- 休日に教師が、部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
  - ・学校の働き方改革を推進
  - ・学校教育の質の向上

## 3. これまでの経緯

### ■ 第1回小牧市小中学校部活動検討委員会（令和4年10月28日実施）

- ・国（スポーツ庁、文化庁）の部活動の地域移行に関する検討会議の提言を受け、小牧市においても、中学校部活動の休日における地域移行を検討。
- ・令和7年度以降の本格実施を見すえ、令和5年度はモデル校を設置し、地域移行の課題を洗い出すこととする。  
　　<課題> 指導者の確保、受益者負担、大会参加のあり方 等

### ■ 第2回小牧市小中学校部活動検討委員会（令和4年12月26日実施）

- ・国が令和5年度からの3年間を「改革推進期間」に改めたことを受け、本市においても取組の見直しを行う中で、地域移行については課題が大きいことから、まずは、学校部活動における地域連携（拠点校部活動）を進めることとする。
- ・令和5年度は、モデル校を小牧中、桃陵中の2校とし、取組を進める。

# 4. 令和5年度モデル校における地域連携の取組

## 桃陵中学校

## 篠岡中学校

【参考】拠点校部活動とは

【設置部活】  
 軟式野球  
 ソフトボール  
 サッカー  
 バasketボール  
 バレーボール  
 ソフトテニス  
 卓球  
 吹奏楽  
 創作  
 情報

【設置部活】  
 バレーボール  
 ソフトテニス  
 卓球  
 トータルスポーツ  
 吹奏楽  
 創作

参加

部活動として  
 バasketボールに  
 取り組みたい生徒

(1)在籍校に希望する部活動がない。  
 (2)希望する部活動はあるが専門的に指導できる顧問がない。  
 上記の場合に、参加を希望する生徒を一つの学校が受け入れるというもの。

(愛知県中学校総合体育大会に関わる拠点校部活動参加規程より一部抜粋)

- ・ 地域連携の一環としての拠点校部活動
- ・ 篠岡中学校の生徒が桃陵中学校の休日の部活動に参加
- ・ 夏の中学校大会にもチームの一員として参加

## 5. モデル校情報交換会（令和5年11月28日実施）

### ■参加者

- ・小中学校部活動検討委員会委員長
- ・令和5年度モデル校校長（小牧中、桃陵中）
- ・令和6年度モデル校校長（篠岡中、小牧西中、光ヶ丘中）

### ■内容

- ・令和5年度の実践について（現状、課題等）
- ・令和6年度以降の実践について

外部指導者の発掘

生徒からの希望により、モデル校に  
設置されている部活動への参加を検討

新チーム発足時に部員不足



近隣を中心に他校との連携を模索

拠点校だけの負担に  
ならない方策は・・・？

地域連携・地域移行を進めるにあたっての課題は・・・？



# 6-1. 他市町の取組事例 1

(休日の中学校部活動地域移行推進事業意見交換会より)

## ■運動部

- ・運営主体は地域スポーツクラブ
  - ・野球、バスケットボールなど数種目を指定して実施
  - ・第1・3日曜に90分から3時間程度活動
  - ・場所は中学校施設や市管理施設
  - ・参加費は受益者負担（指導者報酬、事務局費などに充てる）
  - ・指導者は社会人や学生、兼業教員
- ※指導者の確保（量と質）、生徒や保護者への周知、理解

## ■文化部：吹奏楽

- ・運営主体は地域クラブ（吹奏楽団）
  - ・中学生、高校生、大学生、社会人が参加
  - ・場所は学校体育館や市管理施設
  - ・参加費は受益者負担
  - ・指導者は団員
- ※指導者（団員数）の確保、部活動に対する考え方の二極化

## 6-2. 他市町の取組事例 2

### ■子どもたちのニーズの把握から・・・

取り組みたい種目や  
文化的活動は？

活動日数や大会参加については？

サッカー

バドミントン

軟式野球

料理

プログラミング

美術

※ 種目により活動場所(学校等)を指定

### ■数年後を見すえて・・・

従来の学校部活動は数年後に廃止  
※多様な価値観、考え方に応え、  
持続できる文化・スポーツ活動を創る

子ども

生涯学習への第一歩

「部活動種目にはない活動にチャレンジ！」  
「様々な地域の仲間とチャレンジ！」

教師

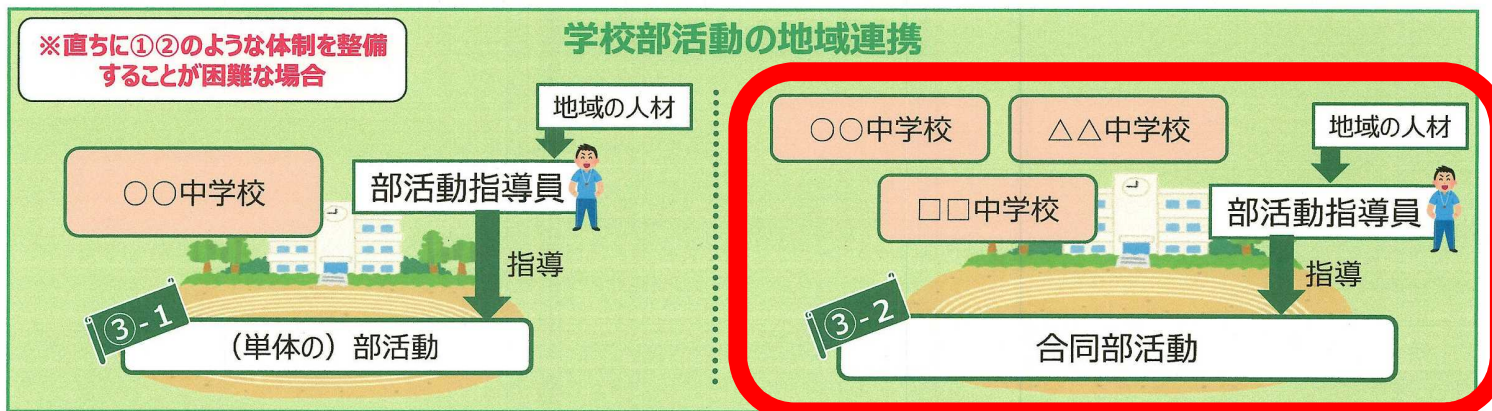
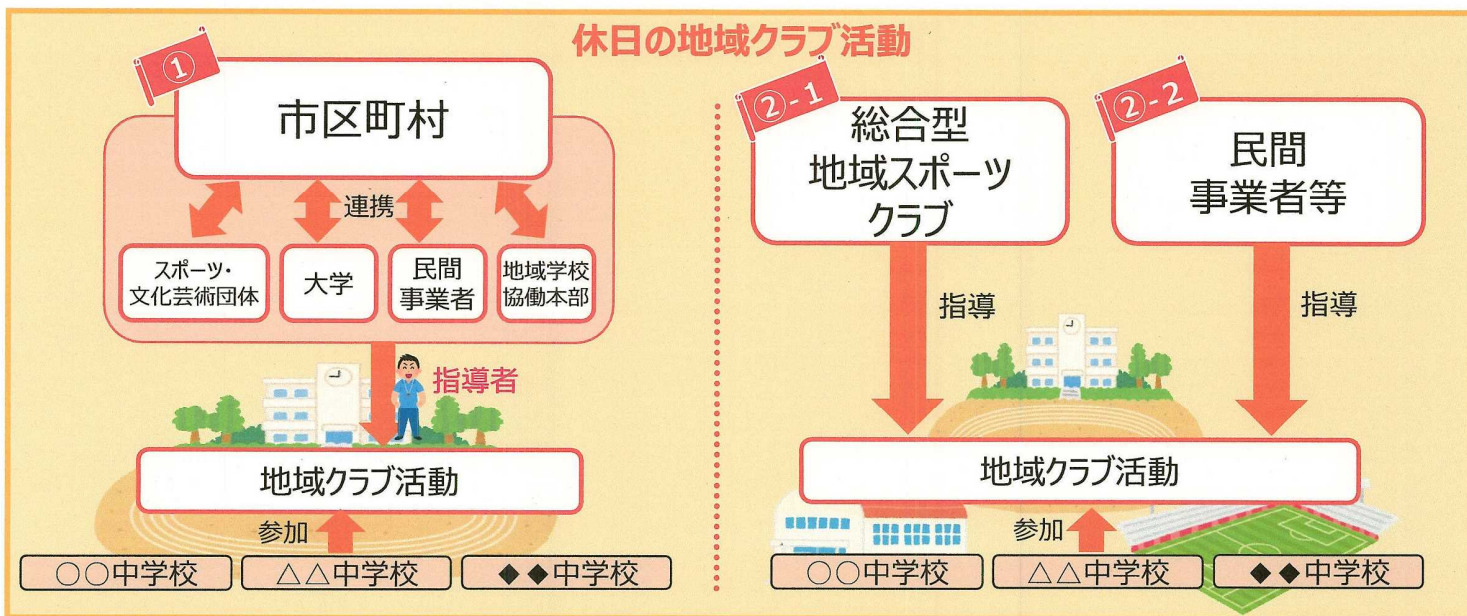
魅力ある働き方の実現 「魅力ある授業づくりにチャレンジ！」  
「指導したい種目の指導に専念！」

地域住民

新たな生きがいの創出

# 7-1. 令和6年度の取組にむけて

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインより  
(令和4年12月)

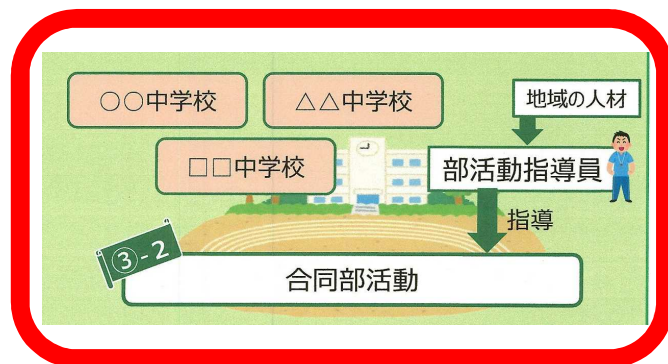




## 7-2. 令和6年度の取組にむけて

### ■ 令和6年度モデル校による地域連携（例）

- ・ 小牧中、小牧西中の2校間における地域連携
- ・ 桃陵中、篠岡中、光ヶ丘中の3校間における地域連携



### 活動場所

A 中学校○○部  
顧問A、外部指導者A

B 中学校○○部  
顧問B

C 中学校○○部  
顧問C、外部指導者C

A 中学校

各校の顧問、外部指導者の  
協力体制のもと活動

B 中学校

A 中学校△△部  
顧問a

B 中学校△△部  
顧問b、外部指導者b

C 中学校  
△△部の設置なし  
参加希望の生徒

※部員不足、指導者不足、活動場所の確保等への対応の  
必要性を想定



## 8. 取組を進めるにあたって

- 生徒、保護者、教員のニーズの把握
- 外部指導者の確保
- 安全な活動環境の整備（保険等）
- 大会参加について
- その他